

学校運営協議会委員評価

今年度の評価と来年度に向けて

【 評価全般 】

(1) 生徒アンケートでは、間違っただ行動に対し、先生はきちんと指導してくれるという項目の結果が高い。生徒会行事の活動に楽しく参加できていると生徒自身の満足度も高く、先生との信頼関係がベースにあることを保護者も地域も認めてくれていると感じている。

また保護者は学力向上や一人ひとりに親身に対応してほしいという意見が多いが、通級指導の教室もできるということで、生徒の対応も居場所もできている。

(2) 新聞などマスコミ等の取材依頼も多く受けていると聞く。「FM名張」でも名張中の様子が流れていたが、授業もある中、よく引き受けていただいている。オンラインでの子どもたちの様子の発信は職員がまとまっていけないものだと思う。ホームページでも、かなり詳しく学校の様子を発信してくれている。



(3) 大きい集団になじめない生徒や特別な支援の必要な生徒など、個々の対応が必要な生徒が増える中、学校が「チーム名張」で精一杯対応してくれている様子がわかる。学びの保障としての別室でのタブレット等の活用、通級指導学級の活用も始めてくれている。それを充実させながら、どのようにクラスに戻していくか、また生徒同士をかかわらせていくかが大切である。今、学校が始めてくれていることを有効にすすめてほしい。ただ、学校は個々の対応を丁寧すすめてくれているが、学校が果たすべき役割、保護者が果たすべき役割を見極めながらすすめてほしい。

【 来年度への方向性について 】

(1) 地域と学校が互いに垣根を低くして、つながる、知り合う場をつくる必要がある。地域からの支援を受けようと思えば、保護者や地域にとって、入りやすい学校でなければならない。中学生がいない家庭であっても、なんらかの形で名張中とかかわっているというような、学校の前を通ったら、寄りたくなるような、地域と学校が遠慮なしにもの言えるような関係になるための手当が必要だと思う。

(2) 地域との合同の避難訓練については町が小さくなり、お年寄りも多いため中学生の力があればと思うが、学校は子どもの安全が第一である。地域防災で名張市全体の所へ入り込むのは難しいと思う。例えば老人会に顔を出してもらうなど、少しずつ互いを知り合うことから始めるのが良いのではないか。また中学生や学校に頼めることを地域ごとに考えていくことも必要ではないか。名張小学校でも来年、地域を巻き込んだ避難訓練をしたいとの話が出たが、名中と同じ地域となることから、小中が足並みを揃えて話し合う必要があると思う。

(3) 中学生が地域に入ってもらうときに、土日部活動があり、また地域でも、どこにどんな子どもがいるのか、把握できていない。今年度はコロナ禍でできなかったが、4つの「まちづくり協議会」の行事にオーケストラ部や美術部が参加してくれていることをこれからも続けてもらいながら、次の一手を検討していけばよいのではないか。

(4) 今年度、生徒会役員との懇談は有意義であった。今後はCS委員だけでなく、地域の会合などで、生徒や先生方と地域の役員が互いの課題を知り合い、解決に向けての話ができる場がもてるといい。

【教育委員会が行う支援について】

子どもたちの多様なニーズに応えるため、少しずつCS委員が学校へ入り、学校支援ができてきた。しかしボランティアとはいえ、ご自身がガソリン代やお昼を用意して支援をされるのでは、長続きはできない。ぜひ、有償ボランティア制度を検討いただきたい。